

米沢市教育振興基本計画（令和3年度～令和7年度）の  
施策体系における現状と課題（学校教育課・教育総務課）

基本目標	1	これからの時代を生き抜く力を持つ子どもの育成
施策	1-1	自ら学び考え行動できる力を育む学校教育の充実
主な取組の現状と課題		
<p>(1) 教育の米沢品質による探究型学習のさらなる推進</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒自らが課題意識をもって主体的に学ぶ「探究型学習」を実施している。</li> <li>・校内授業研究会への指導主事派遣を行い、各校の実態に応じた探究型学習の推進に努めている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学力調査の結果から各校の児童生徒の強みや弱み等の実態を把握し、引き続き授業改善を進めていく必要がある。</li> </ul> <p>(2) 学校不適應児童生徒への支援</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新規不登校児童生徒を出さないための取組と家庭と学校で連携した支援の共有」を重点に、学校不適應の未然防止を目指し取り組んでいる。</li> <li>・登校できない児童生徒や別室登校の児童生徒の学習の機会を保障するため、タブレットを使ってオンラインで授業を配信する取組を推進するとともに、児童生徒の実態に応じた居場所及び学習機会の確保を推進している。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度の不登校児童生徒の出現率は、増加傾向にあり、特に、小学校低学年と中学1年生において学校不適應による新規不登校児童が増加している。</li> </ul> <p>(3) キャリア教育の推進</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己変容の自覚や自己評価するキャリアパスポートの活用を図るとともに、中学生の職業体験活動である米沢チャレンジウィーク事業によって、望ましい勤労観の育成とキャリア教育の充実を目指している。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米沢チャレンジウィークの実施にあたって、熱中症対策、学区広域化による通勤困難、スマートフォン持ち込みなど、今まで以上に丁寧な指導が必要になっている。</li> </ul> <p>(4) 教員のICT活用力・指導力の向上</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度から導入した児童生徒及び教師用一人一台端末について、日常的にクラウドを活用した授業に取り組んでいる。</li> <li>・会議や欠席児童生徒との連絡に積極的にオンラインを活用する機会が増えたこと</li> </ul>		

で、教員のICT活用力と指導力が向上している。

**【課題】**

- ・情報セキュリティチェック表を活用し、教職員のセキュリティ意識を向上させ、情報漏洩対策を継続する。

**(5) 読書活動の推進**

**【現状】**

- ・1校当たり年間4～6週間程度の期間、学校司書2名を派遣し、書籍の展示や紹介のポップ作成や、図書室内のレイアウトの工夫など図書室の環境整備に関する各校への助言、児童生徒への読み聞かせやブックトーク等を行っている。

**【課題】**

- ・小学校の図書の貸し出しに比べて、中学校の図書貸し出しが少ない。

**(6) 体力運動能力、運動習慣等の向上**

**【現状】**

- ・体育の授業では、児童生徒が自分の動きを見るためにICT機器を効果的に活用して運動の質の向上を実感し、さらに自分なりの目標を立てて取り組む等、探究型学習を意識した授業展開の工夫が図られている。
- ・体力合計点は年々低下の傾向にあったが、小・中学校ともに令和6年度は横ばいの傾向が見られた。
- ・令和6年度から小学校にて、子どもが楽しみながら積極的に体を動かせる「アクティブチャイルドプログラム(ACP)」を活用した、「米沢市小学校体づくりプロジェクト」を実施している。

**【課題】**

- ・本市の中学生は部活動での運動時間が多いものの、部活動のない曜日になると運動時間が大きく減少する傾向があり、学校の授業や部活動以外の時間にも、運動に親しむ習慣をつくっていく必要がある。
- ・小中学生ともに、平日メディアを2時間以上見る割合は、全国平均よりも高く、なお、昨年の本市の結果よりも増加している。

**(7) 外国語教育の推進**

**【現状】**

- ・児童生徒のコミュニケーション力の向上につながるよう、英語でのやり取りのモデルとして教員とALTが会話をしたり、学んだやり取りを生かして児童生徒がALTと会話をしたりする学習がなされている。
- ・学習評価の取組として、ほとんどの小中学校で、児童生徒と講師が1対1で話す機会をもち、話すこと(やり取り)のパフォーマンステストを実施している。

**【課題】**

- ・授業の中で児童生徒が英語でやり取りを行う機会が少ないことや、英語を用いる目的や場面、状況を精査した学習活動の設定が課題である。

<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書やデジタルドリルなどのICTを活用した個別最適な学びや、英語を用いたコミュニケーション能力の育成を意識した授業改善を進める必要がある。</li> </ul>			
成果指標 (KPI)	R1	R6	R7
自己のキャリア（将来の夢や目標を持っているか）について前向きに考えている子どもの割合	小学校 82.4% 中学校 71.8%	小学校 81.3% 中学校 66.0%	小学校 88% 中学校 80%
思いやり（人が困っているときは、進んで助けるか）の気持ちを行動に移そうと考えている子どもの割合	小学校 84.4% 中学校 83.6%	小学校 93.2% 中学校 89.1%	小学校 89% 中学校 88%
読書を好む子どもの割合	小学校 75.8% 中学校 65.0%	小学校 75.6% 中学校 74.3%	小学校 80% 中学校 75%
全国体力・運動能力調査において、本市の平均が全国の平均を上回った調査項目の割合	小学校 93.7% 中学校 44.4%	小学校 75.0% 中学校 55.6%	小学校 100% 中学校 100%

基本目標	1	これからの時代を生き抜く力を持つ子どもの育成
施策	1-2	学びを支える教育環境の充実
主な取組の現状と課題		
<p>(1) 小中学校の再編の推進</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度の南成中学校及び北成中学校の開校に向けて、開校準備委員会において、地元代表者協議会意見書の趣旨を踏まえ必要な検討を継続的に行っている。</li> <li>広幡小、六郷小及び塩井小の統合小学校となる広井郷小学校についても開校準備委員会を立ち上げ、PTA、地域、教職員等による協議検討を行っている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開校準備委員会では、小中学校の再編統合後の安心安全な通学のあり方をはじめとした各種テーマについて丁寧に検討を進めていく必要がある。</li> </ul> <p>(2) 学校施設の整備の推進</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年4月に第五中学校が第一中学校に統合するにあたり、校舎内部改修や駐車場の整備を行い、今年度は駐輪場を整備する。</li> <li>令和8年度の南成中学校の開校に向け、現第二中学校グラウンドに校舎及び屋内運動場を新設するため、令和6年度から建設工事に着手している。令和8年度に現校舎等を解体、令和9年度にグラウンドを整備し、工事完了となる予定である。</li> <li>令和8年度の北成中学校の開校に向け、現第四中学校に必要な改修（空調設備、LED照明等）を令和7年度中に実施する。</li> <li>令和8年度の学校給食共同調理場の供用開始を目指し、PFI方式による事業を</li> </ul>		

推進し、建設工事に着手している。

#### 【課題】

- ・南成中学校については、昨冬の大雪の影響により工期に遅れが生じているため、令和8年4月開校を目指し、施工方法等を工夫しながら、きめ細やかな進捗管理と安全性に十分配慮し、整備を進めていく必要がある。
- ・令和8年度は、南成中学校と北成中学校が同時開校となるため、第二中学校、第三中学校、第六中学校からの引っ越し作業に加え、令和8年度に予定されている第二中学校の解体や第六中学校の改修工事に向けた校舎内物品の整理等、短期間に膨大な業務が見込まれている。
- ・令和9年度に開校を予定する広井郷小学校で使用する現第六中学校については、中学校仕様から小学校仕様に校舎を改修する必要があるため、改修が大規模となる見込みである。
- ・多くの学校施設において、建物や設備の老朽化が進んでいる状況であるため、優先度を十分に検討しながら、計画的に改修を進めていく必要がある。

### (3) 地域に根差した食育の推進

#### 【現状】

- ・学校給食では、置賜産農産物共同購入として、給食に15品目を取り入れ、食育の日献立として提供している。
- ・県立米沢栄養大学と連携した子ども食育マスター育成事業では、地元ならではの食材を用いた調理実習などの体験活動を、各教科との関連をマネジメントしながら行った。

#### 【課題】

- ・子ども食育マスター育成事業を利用している学校に偏りがあり、幅広く事業活用が図られるよう、各校への依頼、調整を行っていく。

### (4) 学校ICTの環境整備の推進

#### 【現状】

- ・1人1台端末が効果的に活用できるようにドリル教材を整備しているほか、Wi-Fi環境のない家庭にモバイルルータを貸し出し、持ち帰り学習やオンライン授業ができる環境を整え、家庭での使用を推進している。
- ・端末を活用した悩み相談フォーム「ひとりじゃないよ」により、児童生徒が家庭でも気軽にWEB上のフォームに相談ができるようにしている。

#### 【課題】

- ・今後の端末更新等に向けて、国等の補助について情報収集する必要がある。

成果指標 (KPI)	R1	R6	R7
複式学級 (2つの学年で構成される学級) 数	12 学級	4 学級	4 学級

学校給食における置賜産農産物共同購入対象品目	12 品目	15 品目	15 品目
授業に I C T を活用して指導することができる 教員の割合	69.1%	84.9%	100%

基本目標	1	これからの時代を生き抜く力を持つ子どもの育成
施 策	1-3	連携を活かした教育の充実
主な取組の現状と課題		
<p>(1) 安全・安心を優先した各種マニュアルの見直しと整備</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を通して、地区のハザードマップを参考に緊急時の避難について考えさせるよう努めている。</li> <li>・昨今の異常気象や高温による熱中症を予防するため、「米沢市小中学校熱中症対応ガイドライン」を改訂し、各校において危機管理マニュアルの再点検を行った。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校の安全確保や保護者への情報共有の仕方について定期的に周知方法を確認していく必要がある。</li> <li>・熱中症への対策については、気候変動に応じた見直しが大切である。</li> </ul> <p>(2) 郷土愛の醸成と地域人材の活用</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校では、教科学習に関連して、体育の実技指導、農業体験、地域学習講話等で地域人材を活用するなど、地域との関わりを創出し、郷土愛の醸成を図っている。</li> <li>・中学校では、総合的な学習の時間で「米沢学」として地域学習を実施している。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材の活用については、オンラインも活用しながら、人的物的資源の活用を視野に入れたカリキュラム・マネジメントを充実させることが必要である。</li> </ul> <p>(3) 市立米沢図書館・博物館との連携</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市立図書館では小学校 10 校で施設見学が行われ、図書への親しみや読書への関心の醸成につながっている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ギャラリーにおける小中学生の展覧会を周知するだけでなく、週末課題として見学させるなど、利用機会を増やせるように検討する。</li> </ul> <p>(4) 幼保小中連携の推進</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小連絡協議会の実施や、公開保育への参加を行っている。</li> </ul>		

- ・小中連携については、各中学校区において、小中学校の教員が集まる「連携の日」を一斉開催し、分科会ごとに米沢市の教育課題解決に向けた協議がなされている。

**【課題】**

- ・幼保小の情報共有にとどまらない、効果的な連携が必要である。

成果指標（KPI）	R1	R6	R7
自己肯定感（自分には良いところがあるか）を感じている子どもの割合	小学校 85.1% 中学校 78.3%	小学校 86.2% 中学校 87.1%	小学校 90.0% 中学校 83.0%
地域学校協働活動推進事業の地域学校協働本部設置校数	1校	0校	4校
市内大学等の高等教育機関と連携した事業数	18回	17回	25回

米沢市教育振興基本計画（令和3年度～令和7年度）の  
 施策体系における現状と課題（社会教育文化課）

基本目標	2	生涯学び、学びを活かして元気に活躍する人づくり		
施策	2-1	生涯にわたる多様な学習機会の創出		
主な取組の現状と課題				
<p>(1) 子ども読書推進事業</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ブックスタート」や「おはなしかい」を実施し、乳幼児の時から本に親しむことができるように機会を提供している。</li> <li>・子ども読書活動推進計画に基づき、「ナセBAうちどくスタンプラリー」や小学校巡回文庫、夏休みこども図書館フェアなどを実施し子どもたちの図書館の利用促進を図っている。</li> </ul> <p>(2) 米沢鷹山大学運営の支援</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米沢鷹山大学の運営を支援し、米沢鷹山大学企画講座や様々な知識・技能を持つ市民による企画運営型の講座「市民おしょうしなカレッジ」による学習機会の提供を行っている。</li> </ul> <p>(3) 高等教育機関の資源を利用した学習機会の提供</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形大学工学部との連携により、小学生向けの科学実験教室の開催(モバイルキッズケミラボ)を開催している。</li> <li>・米沢女子短期大学との連携による市民公開講座(総合教養講座)も開催している。</li> </ul> <p>【課題】( (1) ~ (3) について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座等を通じて様々な分野の学びを深めるとともに、市民同士の交流を促し、豊かな生活を送ることが生涯学習の意義であるが、技術革新による社会変化に合わせ、ICTを活用した学習機会の創出を推進していく必要がある。</li> <li>・一方で、図書館などの会場に参集するといった従来型の学習の機会の創出は、市民の豊かな交流や仲間づくりの機会の確保を図る観点から今後も引き続き必要と考える。</li> </ul>				
成果指標 (KPI)		R1	R6	R7
図書貸出冊数		446,008 冊	367,505 冊	463,000 冊
市民おしょうしなカレッジ参加者の満足度		97%	96%	98%
高等教育機関開放講座受講者数 (学生を除く)		1,082 人	735 人	1,300 人
コミュニティセンターの利用者数		316,436 人	266,056	330,000 人

基本目標	2	生涯学び、学びを活かして元気に活躍する人づくり		
施策	2-2	学びを活かせる機会の拡充		
主な取組の現状と課題				
(1) 地域づくりを推進する事業				
【現状】				
・ 地域社会の中心となるコミュニティセンターの職員、地域づくりに関心のある市民を対象として、生涯学習によるまちづくりの推進や地域社会の担い手の育成を目的とした各種研修会・講座を実施している。				
【課題】				
・ 生涯学習によるまちづくりを主体とした研修会や講座を引き続き実施し、市民のさらなる学びやつながりを喚起していく必要がある。				
(2) 社会教育施設等での発表の機会や活躍の機会の創出				
【現状】				
・ 米沢鷹山大学において、様々な知識・技能を持つ市民による企画運営型の講座「市民おもしろなカレッジ」を行い、事業の主催者として活躍できる機会の創出に取り組んでいる。				
【課題】				
・ 関係機関等と連携を推進し、市民や各種団体が学習活動を発表できるよう取組む必要がある。				
成果指標 (KPI)		R1	R6	R7
鷹山大学企画講座・市民おもしろなカレッジでの新規市民講師の人数 (現状値、指標値とも H30 からの増加人数)		4 人	31 人	8 人
コミュニティセンターの地区文化祭における参加団体数 (17 館の合計数)		487 団体	405 団体	540 団体

基本目標	2	生涯学び、学びを活かして元気に活躍する人づくり		
施策	2-3	地域社会の担い手の育成		
主な取組の現状と課題				
(1) 米沢市まちづくり出前講座				
【現状】				
・ 市職員が講師となり、市民の要望に応じて、行政に関する専門知識を活かした学習機会を提供している。				
【課題】				
・ 引き続き学習の機会を提供し、市民の地域づくりに対しての参画意欲を高める必要がある。				

## (2) 地域づくりに参画する市民の養成事業（再掲）

### 【現状】

- ・地域社会の中心となるコミュニティセンターの職員、地域づくりに関心のある市民を対象として、生涯学習によるまちづくりの推進や地域社会の担い手の育成を目的とした各種研修会・講座を実施し、地域が必要とする人材の養成や地域の活性化に寄与している。

成果指標（KPI）	R1	R6	R7
米沢市まちづくり出前講座の開催回数（市民の要請を受けて開催）	96回	201回	110回
生涯学習ボランティアマナビストの新規認定者数（H30からの増加人数）	0人	2人	10人

基本目標	2	生涯学び、学びを活かして元気に活躍する人づくり
施策	2-4	青少年教育・家庭教育の推進
主な取組の現状と課題		
<p>(1) 児童会館運営管理事業</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児から中学生までを対象とした講座や、親子で体験できる講座、利用者全員を対象とした伝承活動事業を実施するなど様々な体験活動の機会を設けている。</li> <li>・乳幼児の入館者は減少しているが、中学生の利用者が増加しており様々な年代が利用できる社会教育施設として機能できている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き学習の機会を提供し、市民の地域づくりに対しての参画意欲を高める必要がある。</li> </ul> <p>(2) 家庭教育の推進</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者を対象とした講座を実施し、家庭の教育力の向上を図るとともに、地域や学校、幼稚園等が連携し子育てをする意識を高めている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者等を対象とした子育てに関する講座等を継続して実施していくとともに、家庭・学校・地域が連携して子育てをしていく意識を醸成していく。</li> </ul> <p>(3) 青年の家事業</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生キャリア教育推進事業として、小学校高学年から中学生を対象に、普段触れ合うことの少ない専門性の高い職業人から、仕事の魅力や社会的役割、仕事</li> </ul>		

への向き合い方を学ぶセミナーを実施している。(R7～生涯学習推進事業に統合)  
 ・中高生を対象にイングリッシュ・キャンプを開催し、外国人の国際交流員、留学生等との間で模擬体験留学イベントを実施している。(R7～休止。)

#### (4) 青少年指導センター事業

##### 【現状】

・青少年の非行・犯罪を防止するため、指導委員が街頭指導実施計画のもと、青少年の集まりやすい箇所を中心に巡回指導を実施している。

##### 【課題】

・インターネットや SNS 等の普及により、闇バイトや性被害の増加など、青少年を取り巻く環境の変化に対応した青少年の指導活動が必要である。

#### (5) 青少年育成団体との連携

##### 【現状】

・青少年の非行・被害防止全国協調月間にあわせた成人向け図書類調査や、青少年問題に取り組んでいる方々との「環境づくり懇談会」、事例発表や意見交換を行う「青少年育成地域活動交流会」を開催している。

##### 【課題】

・青少年のインターネット被害や犯罪防止についての取組を強化し、引き続き地域、学校、各関係機関・団体と連携し、地域に根ざした青少年の健全育成の充実を図っていく。

成果指標 (KPI)	R1	R6	R7
幼稚園・保育園・小中学校保護者対象の家庭教育講座の開催回数	33回	21回	35回
親子でふれあい体験する事業の開催回数(中央公民館・児童会館・各コミセン事業の総計)	22回	43回	30回
青少年を対象とした学習事業への参加延べ人数(中央公民館・児童会館・よねざわ昆虫館・各コミセン事業の総計)	12,337人	9,428人	13,000人

基本目標	3	多様な文化芸術と歴史・文化が息づき、豊かな心を育む地域づくり
施策	3-1	文化芸術に親しむ機会の充実
主な事業の実施内容及び現状と課題		
(1) 芸術文化活動促進事業		
【現状】		
・市民芸術祭を、毎年、市民ギャラリーを拠点として開催している。		

**【課題】**

- ・芸術文化活動や地域の伝統文化を継承している団体は、高齢化と後継者不足等の共通の課題を抱えている。
- ・SNSの普及により、個人でも気軽に作品を発表し、多くの人と交流を持つことが可能になっているため、団体に属さず活動を行っている方が多くなっている。

**(2) 子どもの文化芸術活動支援****【現状】**

- ・博物館において常設プレイショップや募集型ワークショップを実施し、季節の風物や置賜の民族風習の紹介、様々な素材や技法にふれることのできる体験プログラムを提供している。

**【課題】**

- ・各施設における自主事業は、対象者を絞り込んで実施することが少ないため、若年層が学校の行事以外で芸術に触れる機会が限られている。

成果指標 (KPI)	R1	R6	R7
市民芸術祭への参加数	58 団体・個人	52 団体・個人	65 団体・個人
文化施設利用件数 (置賜文化ホール、市民文化会館、座の文化伝承館、市民ギャラリー)	1,554 件	1,559 件	1,800 件

基本目標	3	多様な文化芸術と歴史・文化が息づき、豊かな心を育む地域づくり
施策	3-2	地域の伝統文化や文化財の保存・継承と活用
主な事業の実施内容及び現状と課題		
(1) 文化財を通じた学びの機会の拡充		
<b>【現状】</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内遺跡発掘調査事業において、開発事業に伴う試掘・確認調査や、発掘調査現場見学会を開催している。</li> <li>・上杉文書調査事業において、令和3年度から令和7年度までの5カ年計画で史料調査を実施しており、調査成果の一部は、上杉博物館において紹介している。</li> </ul>		
(2) 国指定史跡上杉治憲敬師郊迎跡保存修理事業		
<b>【現状】</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年度から国指定史跡「上杉治憲敬師郊迎跡」の保存修理事業を実施している。</li> <li>・令和6年度は米沢女子短期大学日本史学科の学生、檀家などの関係者を対象に保存修理工事現場を公開した。</li> </ul>		

### (3) 指定文化財保存修理事業

#### 【現状】

- ・令和2年度から上杉神社所有の国指定重要文化財「服飾類」の保存修理事業に対しての補助を継続している。

### (4) 市指定文化財の指定

#### 【現状】

- ・令和6年度に開催した米沢市文化財保護審議会にて、龍泉寺が所有する鎌倉時代の善光寺式阿弥陀三尊像「銅造阿弥陀三尊像」と、上杉神社が所有する上杉謙信所用と伝わる馬具「毛氈鞍覆」2件の諮問・答申があり、令和7年4月16日付けの教育委員会告示で市の指定文化財となった（市指定61→63件）。

#### 【課題】（（1）～（4）について）

- ・令和5・6年度は若干の改善があったものの、全国的に史跡の保存整備や発掘調査に対する補助の要望件数が多く、これらに対する国庫補助金の交付が抑制されていることから計画通りに事業が進まない状況が続いている。
- ・令和7年度の上杉治憲敬師郊迎跡（普門院本堂）保存修理事業は満額交付となったが、補正予算の対応による臨時的なもので、安定的な財源が確保された状況ではない。
- ・少子高齢化や物価高が影響し、文化財の適切な保存修理や公開・活用への影響が懸念される。

成果指標（KPI）	R1	R6	R7
市指定文化財件数	60件	61件	63件

**米沢市教育振興基本計画（令和3年度～令和7年度）の  
施策体系における現状と課題（スポーツ課）**

基本目標	4	スポーツで楽しく元気な人づくり		
施 策	4-1	スポーツ参画人口の拡大とスポーツ環境の充実		
<b>主な取組の現状と課題</b>				
<p>(1) スポーツイベントの取組</p> <p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米沢市民レクリエーション大会は、老若男女問わず参加できる種目で実施し、令和6年度は、前年度より参加地区数・参加者数ともに増えた。</li> <li>・モンテディオ山形市町村応援デーの周知により「観るスポーツ」の推進を図っているほか、試合当日は市外観戦者へ本市のPRも行っている。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度に米澤上杉城下町マラソンが休止となったこともあり、地域を巻き込んだ「観る・支える」スポーツの機会減少が課題となっているほか、地域社会の希薄化や人口減少にあっても持続可能なイベント等の企画・運営について考えていく必要がある。</li> </ul> <p>(2) スポーツ施設運営管理事業</p> <p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内 21 箇所のスポーツ施設について、民間活力を活用し、指定管理による管理を行っている。</li> <li>・施設改修及び備品の更新として、令和6年度は、市営体育館のアリーナ床修繕等を行うとともに、市営体育館及び市営八幡原体育館にはトレーニング機器を更新し、施設機能向上や利用者の安全を図り、魅力あるスポーツ施設管理運営を進めてきた。また、市営体育館会議室へエアコンを設置し、利用者等の熱中症対策も実施した。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、利用人数は一次的に回復傾向にあるものの、今後人口減少の流れもあり、利用者による収益の見込みが難しいことが想定される。</li> <li>・施設の老朽化だけでなく、既存の照明器具の生産停止によるLED化も急がれる状況であり、安全・安心な施設運営管理を行うために、今まで以上に費用の増加が想定される。</li> <li>・熱中症対策を施しているものの、体育館のアリーナ等の冷房設備の設置や、屋外スポーツ施設での熱中症対策の取組が課題である。</li> </ul>				
<b>成果指標（KPI）</b>		R1	R6	R7
スポーツイベント参加者数		1,202 人	2,486 人	3,000 人

スポーツイベントボランティア参加者数	465人	329人	1,000人
総合型地域スポーツクラブ数	4クラブ	4クラブ	5クラブ
スポーツ少年団加入率(小学生)	23.9%	19.8%	30%
スポーツ施設利用状況	380,966人	310,319人	400,000人

基本目標	4	スポーツで楽しく元気な人づくり		
施策	4-2	スポーツを通じた共生社会の実現と地域活力の向上		
主な取組の現状と課題				
<p>(1) 健康増進の取組</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康増進に関する連携協定を締結している明治安田生命保険相互会社と連携しFUN+WALK推進事業として各種イベントを開催している。</li> <li>スポーツ振興における連携協定を締結している日本体育大学との事業を実施しており、令和6年度は「米沢市スノーダンプ体操」の講座を行った。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>FUN+WALK推進事業について、新規事業を実施し、幅広い世代が健康増進に取り組む機会を提供できている一方、既存のイベントへの参加者の固定化及び伸び悩みについて改善できていない状態にある。</li> <li>「米沢市スノーダンプ体操」の身体の動かし方次第では「除雪」のポイントを意識するだけで「運動」になるという意識の改革も普及できるよう、さらに周知活動を行う必要がある。</li> </ul> <p>(2) 交流人口拡大事業</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>合宿誘致事業として、本市で合宿する県外大学運動部等と地元の選手が交流する機会を提供しているほか、補助金を交付している。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度は令和5年度の受け入れ大学数から半減しており、新規大学等の誘致活動に加え、大学生に魅力を感じてもらえるような、本市の各種資源の発掘及び周知が課題である。</li> </ul>				
成果指標 (KPI)		R1	R6	R7
全国障がい者スポーツ大会参加者数		3人	2人	10人
合宿誘致延べ参加人数		855人	667人	1,100人

基本目標	4	スポーツで楽しく元気な人づくり		
施策	4-3	競技力の向上と地域スポーツの推進		
主な取組の現状と課題				
<p>(1) 競技力向上の取組</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 競技団体に対し強化費を交付し、全国で活躍する選手の育成を支援している。</li> <li>・ 国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会に出場する本市在住または本市出身の選手等に対し、(一財)米沢市スポーツ協会を通じて激励金を交付している。</li> <li>・ 県大会または東北大会を勝ち抜いて全国大会に出場する団体または個人に対し、補助金を交付している。</li> <li>・ 本市で合宿する県外大学運動部と地元の選手が交流する機会の提供や補助金の交付を行っている。(再掲)</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係団体等と連携し、スポーツ少年団から社会人までの競技スポーツに関わる選手の育成・強化において、継続可能な競技力の向上が求められている。</li> </ul> <p>(2) 地域スポーツの推進</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学生のクロスカントリースキー選手を育成することを目的に、米沢スキー連盟に委託しスキー教室を開催している。</li> <li>・ 学校部活動の地域展開に伴い、生徒の受け皿となる地域スポーツクラブ等の整備が急務となっており、令和6年度は、競技団体と連携し地域スポーツクラブを立ち上げ6種目の実証実験を実施した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学生のクロスカントリースキー選手の育成に加え、少子化や競技人口減等の情勢に対応したイベントの実施方法等について、改めて検討する必要がある。</li> <li>・ 地域スポーツクラブの実証実験により、活動場所の確保や鍵の貸し出しに対する指導者の負担が大きいこと、指導者の養成及び資質向上が求められていることなどの課題が明らかとなった。</li> </ul>				
成果指標 (KPI)		R1	R6	R7
全国大会等参加者数 (国スポ・全国及び国際大会)		61人	153人	100人

基本目標	4	スポーツで楽しく元気な人づくり		
施策	4-4	スポーツ推進体制の整備		
主な取組の現状と課題				
<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (一財)米沢市スポーツ協会と協力し、スポーツ団体の自主的活動を支援し団体の</li> </ul>				

育成に努めるとともに、団体相互の連携を図りながら、競技力向上事業を展開するなどスポーツ団体活動の振興を図っている。

- ・ 地区推薦のスポーツ推進委員を中心に、地域スポーツクラブ育成事業及び地域スポーツ大会推進事業（楯等支給）を実施しているほか、米沢市民スポーツレクリエーション大会を開催している。
- ・ 米沢市スポーツ推進審議会において、第2期米沢市スポーツ推進計画やスポーツ課事業の取り組み状況についてや、次年度の事業について協議している。
- ・ 日本スポーツ振興くじ(toto)助成金を活用し、令和6年度は、米沢市営八幡原体育館にトレーニング機器（レッグプレス）を設置した。

**【課題】**

- ・ 市民が安全かつ気軽にスポーツに取り組めるよう、引き続き関係団体と連携・情報共有し、スポーツ環境の整備、スポーツの機会の提供や情報発信を行っていく必要がある。
- ・ 第2期米沢市スポーツ推進計画で掲げている、年齢や性別、障がいの有無等に関わらず誰もが楽しめる生涯スポーツの推進に向け、米沢市民スポーツレクリエーション大会において参加しやすい生涯スポーツ種目を検討し、参加者の増加を図ることが課題となっている。
- ・ 財源確保を目的として各種補助金等の効果的な活用を検討していく。

成果指標（KPI）	R1	R6	R7
スポーツ実施率（成人週1回以上）	35.3%	45.2% ※R4年度値	42%